

## 母校の魅力発信のために鎌倉へ!

### ●「きょうも浦高さん!」

私が浦高同窓会副会長に選任いただいてから早くも5年目が終わろうとしております。野辺博会長(高24回)の下で他の4人の副会長と一緒に、同窓会全体を支えることを責務として携わってまいりました。現在も「浦高創立130周年記念事業検討ワーキング」[委員7名]の座長を仰せつかり、来年度に迫った母校創立130周年において母校や在校生を支援し、さらに同窓生の皆様からも喜んでご支援やご協力をいただける事業について検討させていただいております。振り返ってみますと、私が浦高同窓会に参画するようになったのは、2001年9月に設立した春日部地区浦高会の設立メンバーの一人として、三輪昭彦事務局長(15回、春日部地区浦高会・第2代会長)にお誘いいただいたことがきっかけでした。その後、春日部地区浦高会を活性化するために、会長の命を受けて春日部地区浦高会事務局長として「久喜麗和会の皆様との合同小旅行」[2013年～現在、川越市、古河市、浦高百年の森、野田市(醤油のまち、コウノトリの里、関宿水閘門)、久喜市、春日部市、計8回]、「創立10周年記念事業『春日部麗しの杜づくり』」[2010年～現在、植栽・捕植、草刈り、銘板取付、観桜会、野鳥観察会、計12回]、「創立15周年記念事業『音楽の都ウィーンからの贈り物』」[ウィーン在住の声楽家・富田千種様(19回)にご協力いただき、2015～19年、コンサート5回、中高生への出張講座15回]、「創立20周年記念誌『喫茶去～特別編』発行」[2020年]と、鳥井隆一郎副会長(11回)、根本崇副会長(16回)、田村友彦副会長(16回)の叱咤激励と大きなご支援をいただきながら、毎回ワクワク・ドキドキして企画運営に携わらせていただきました。

そんな鳥井先輩からご推薦をいただき、浦高同窓会の常任理事の一人として同窓会運営に初めて参画させていただいたのが、2013年度だったと思います。当時の川野幸夫会長(13回)の下では、役員の変更方法や任期などを見直すための「同窓会あり方検討委員会」[2014～15年度、委員17名]に参加させていただき、同窓会のあり方を学ばせていただきました。また木村恵司会長(17回)の下では、同窓会の活性化策を検討する「同窓会活性化検討委員会」[2017年、17名]の中で、浦高同窓生人材ネットワークの構築や浦高同窓会の法人化などが検討され、2019年には任意団体の同窓会から「一般社団法人埼玉県立浦和高等学校同窓会」と法人化が実現し、2023年度には同窓生人材ネットワークの中で「金融麗和会」「商社麗和会」と金融界や商社界での横断的な同窓会が立ち上がるなど、さまざまな活性化が図られてきました。

野辺会長の下でも、2023年度に「同窓会事業計画検討委員会」[座長:香田、委員7名]が設置され、同窓会事業における課題の検討と将来的課題の予測、中長期的な事業計画及び財政計画の検討などに携わらせていただきました。

ある先輩が毎週のように浦高関連の事業や会議に出かけるため、奥様から「きょうも浦高さん!」と揶揄されていたそうですが、私もいつしかそんな先輩たちの仲間入りをしてしまったようです。

さて、来年度の事業計画は、3月22日(土)の今年度最後の理事会で承認をいただくため、130周年事業計画案と予算案を提出しなくてはならず、スケジュール表を見ながら思案しています。

◇ ◇

### ●母校の魅力発信と会員の更なるご支援を求めて!

ここ2年間、埼玉県男女共同参画苦情処理委員から県教委に出された「共学化勧告」を巡ってさまざまな動きがあり、まだまだ続いている部分もありますが、母校が多く受験生たちに支持され魅力を保ち続けることができれば、別学校であり続けられると考えている私は、在校生だけでなく、将来、母校を目指してくれるファンを増やしていくことを第一義として考えております。そのためにも、母校の魅力をさらに発信し、母校のプレゼンス(存在意義)を高めていくために同窓会がもっと何かできないかと考えています。

2013年から同窓会会報「麗和」の編集委員の一人として私が参画して12年目、そろそろ紙媒体からの脱却を考えたいと思い、紙媒体での情報発信を変更していると伺った神奈川県立鎌倉高校同窓会『うしお会』様に昨日、篠田雅彦事務局長(32回)とお伺いして貴重なお話を聴かせていただきました。

#### 【うしお会様から学ばせていただいた点】

- ① 若手同窓会員を増やすためにHP、SNSの更なる活用が必要〔例:PayPayでの寄附対応〕
- ② 同窓生からの寄附を求めるには、振込用紙と寄附者名簿は必須
- ③ 広報紙の減量化〔A4・18p⇒4p〕によるコストカット〔作業量と郵送料カット〕
- ④ 同窓会の現状と課題を会員に知ってもらう工夫



同総会役員10名で手分けして様々なことを担われているうしお会様に比べると、専任事務局長がいてくれる役員が少なく、浦高同窓会、先人たちのご努力で5千万円以上の財政力もあり、事業計画〔百年の森、奨学財団、グラウンド人工芝化等〕を提示すれば賛同してご協力いただける多くの会員の皆様、こうしたバックボーンに大いに感謝をしつつ、次の世代が浦高同窓会を引き継いでくれる魅力づくりを!